

椿小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童の実態に応じた複式授業の実践
- 実感を伴った理解により実生活へと生かされる授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

校長

清水 浩三

学力向上推進員

永井 ももこ

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、研修等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習や様々な活動に、前向きに意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○昨年度末の児童のアンケートから、授業で学んだことを生活の中で活用しようとしているという内容に9割以上の児童が肯定的な回答をしている。</p> <p>●漢字の読み・書き・計算等において、長期にわたっての定着度が不足している児童もいる。</p> <p>●長文の読み取りや工夫して計算する問題に対する理解に時間がかかる。</p>	<p>・漢字の読み書きや四則計算などの、基礎的・基本的な知識・技能を習得している。</p> <p>・習得した知識や技能を、他の学習や生活の場面でも応用して活用することができる。</p>	<p>・文字を丁寧に書いたり、習った漢字を使って書いたりといった、基礎的なことを繰り返し指導することで定着させる。</p> <p>・朝のスキルアップタイムや授業の終わりの10分間等を使って、漢字・計算等のドリル学習や、タブレット教材を活用した基礎的・基本的な反復学習を継続的に行う。</p> <p>・漢字検定や数学検定に取り組むことで、児童に目標をもって学習に臨む態度を身につけさせるとともに、基礎学力の向上を図る。</p>	<p>・教科担当者と担任が授業の様子や児童の理解度等について十分に情報共有し、家庭学習や学級での学習時間の学習内容に生かし、基礎学力の定着をはかる。</p>	<p>・朝の活動等で反復学習を継続的に行った結果、基礎学力向上につながった。</p> <p>・漢字検定や数学検定の受験は、合否や得意不得意の内容が分かりやすく表れるため、モチベーションアップにつながった。</p>	<p>・ドリル型の一斉学習だけでなく、自分に必要な基礎学習を考えて、選択できる環境づくりに取り組む。</p> <p>・文字を丁寧に書いたり、習った漢字を使って書いたりといった、基礎的なことを繰り返し指導する。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○既習の事実や、方法・手順がわかっている活動においては、自分の考えを意欲的に伝えたり、見通しをもって積極的に行動したりできる児童が多い。</p> <p>○友だちの意見を聞いたり、良い考えを自分に取り入れようしたりする児童が多い。</p> <p>●思いつきな発言が多く、しっかり考えて自分の考えをもったり、新しい事実や友だちの意見、教師の発問等をもとに自分の考えを再構築する姿勢が身につけていない児童が多い。</p>	<p>・各授業や活動における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。</p> <p>・授業や行事等で積極的に自分の考えを話したり書いたりし、友だちの意見も聞きながらまとめ、他者に伝えることができる。</p>	<p>・学習形態を工夫し、児童相互の学び合いの機会を持てるような授業展開に努める。</p> <p>・自力解決の時間を十分に確保し、自分の考えをもつことができるようにする。</p> <p>・協働の時間には、考えを広げ深めていくことができるように補助発問を工夫するとともに、教師も学習者として考えを述べるようにする。</p> <p>・児童の考えを認め、まちがっても良いと思える雰囲気づくりに努めることで、安心して学習することができる場をつくる。</p> <p>・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を積極的にさせる。</p> <p>・新聞などの資料やタブレットでの検索で得た情報を正しく読み取ったり、自分の考えをまとめたりする活動を、授業の中に取り入れる。</p>	<p>・クラゲチャートやイメージマップなど、思考ツールを活用しながら考えを深めることができるようにする。</p>	<p>・児童の気付きや問題意識をもとにめあてをたて、ノートなどにも書かせて意識できるようにすることで、めあてにそって活動を進めたり考えを深めたりすることができた。</p> <p>・自分の考えを表現する方法としてプレゼンテーションアプリを活用したり、オンラインミーティングアプリを使って他校の児童と一緒に授業を行ったりすることで、自分の考えを伝えたり深めたりする場を設定することができた。</p> <p>・イメージマップやハートカード、板書の文字の色分けなどにより、児童の思考や考えの深まりを視覚化することができ、児童自身の達成感にもつながった。</p>	<p>・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・新しい事実や友だちの意見、教師の発問等をもとに、自分の考えを再構築することができるようにする。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○落ち着いた学習に取り組むことができ、出された課題や家庭学習などに、真面目に取り組むことができている。</p> <p>●主体的な取り組みに対して個人差があり、自分の苦手や課題を考えて自主的・計画的に学習を進められる児童は少ない。</p>	<p>・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。</p> <p>・自分の苦手や興味に応じて自ら課題を設定し、各教科の学習や自主学習等で、学習の仕方を考えながら積極的に取り組むことができる。</p>	<p>・毎時間のめあてを明確にし、授業の中に児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れる授業を考える。</p> <p>・何を・なぜ・どのように学ぶのが児童に伝わるよう、授業のめあてを提示する。</p> <p>・振り返りの時間を確保し、自分の学びを整理することができるようにする。その際、児童が自分の学びや課題に気づくことができるように、振り返りの視点を児童に示し、記述させる。</p> <p>・毎月第1～3金曜を「自主学習の日」とし、自分に合った内容の学習に取り組むことができるようにする。</p>	<p>・振り返りをする時には、大事なことをカッコ抜きで考えるようにしたり、キーワードを使ってまとめたりと、学習内容や実態によって変えていく。</p> <p>・ふり返りをする際は、「この時間何をしたか」「それに対する感想」「次にしたいこと」など手引きを示すことで、本時の学習を整理する。</p>	<p>・教科によっては、学習の流れを決めておくことで、児童主体で学習を進めたり安心して活動できたりすることにつながった。</p> <p>・学習のふりかえりで児童が探求したいと思ったことをもとにして、発展的な学習をすることができた。</p> <p>・友だちや他学年の自主学習ノートを見合う時間を作ったことで、それを参考に、自分の課題や興味をもとに内容を考えて、意欲的に自主学習に取り組む様子が見られた。</p>	<p>・社会科の施設見学など、実際に見たり体験したりできる機会を計画的に設定する。</p>